千葉市における不登校の子どもたちの状況調査（保護者向け）

1 方法

実施主体　千葉市教育機会確保の会
実施時期　2021 年 6 月 7 日～6 月 30 日
対象　　不登校または元不登校の子を持つ保護者で、千葉市内に居住する人。
方法　　グーグル・フォームを利用したウェブ・アンケートを、フリースクール、親の会などから、口コミ、SNS などを通じて拡散
目的　　千葉市教育振興計画に提言する
回答数　64

2 まとめ

・不登校の中心は、繊細で傷つきやすい子どもたち、特性のある子どもたちである。

・「学校の環境」と「教育方法」に合わない子どもたちが多い。

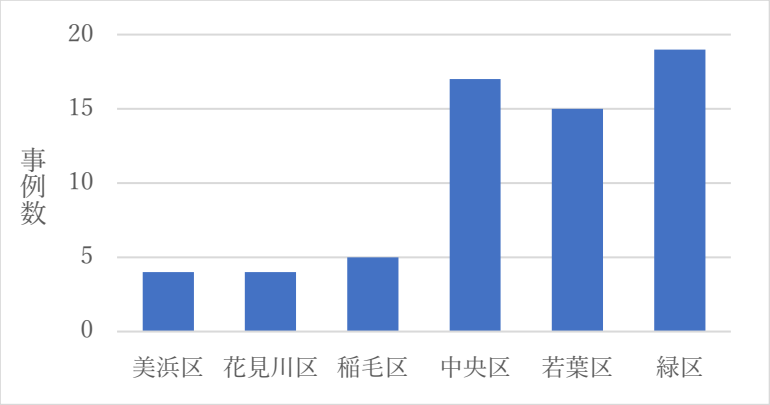
・多くが何らかの学校外施設・機関を利用している。

・要望は、「経済支援」と「子どもが喜んで行く場所」に集中している。

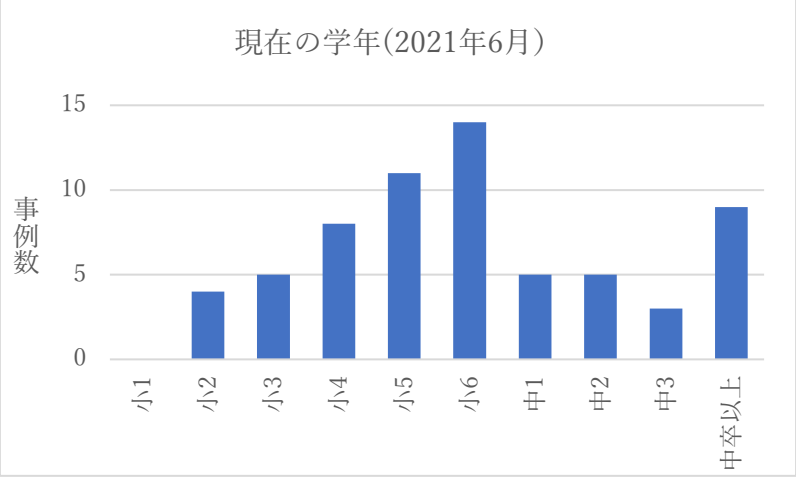
＜著作権について＞ このアンケート調査の結果（文章・グラフ）およびまとめについての著作権は、『千葉市教育機会確保の会』にありますが、子どもと保護者を支援する目的、公共的な政策を形成する目的、学術目的であれば、自由にご利用ください。引用や転載などの二次利用をする場合は、
『千葉市教育機会確保の会』ホームページ https://freeschool-co-labo.com/freeschool.html
よりの転載であることを表記してください。その際 info.kakuhochibashi@gmail.com にもご連絡いただければ幸いです。

アンケートの集計結果

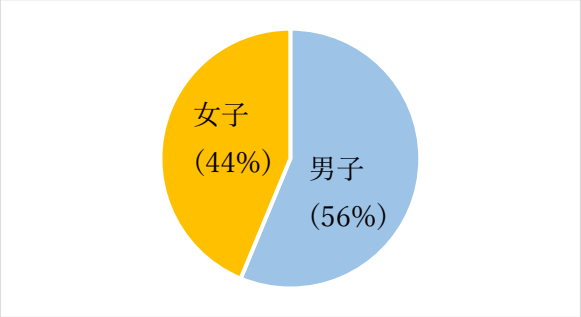
質問１　あなたの住んでいる地区をお聞かせください



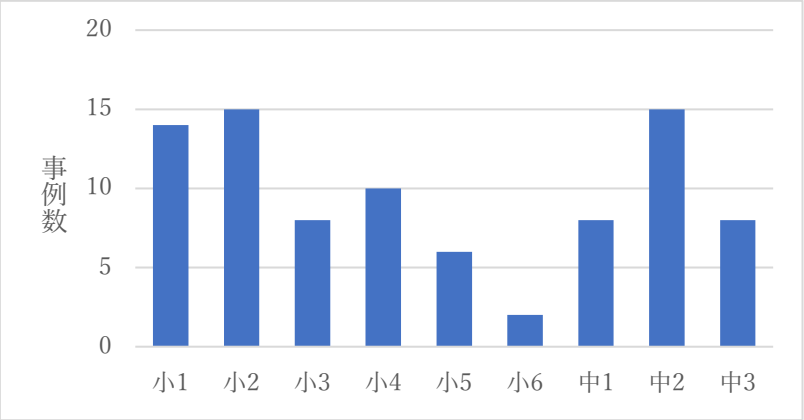
質問２　お子さまの学年についてお聞かせください



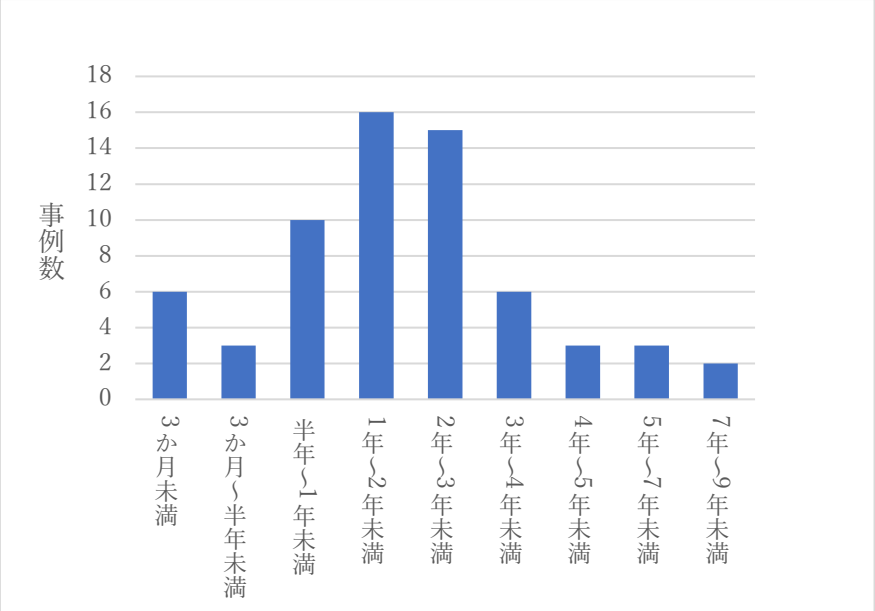
質問３　お子さまの性別についてお聞かせください。



質問４　いつから不登校になりましたか。



質問５　どのくらい不登校ですか？でしたか？

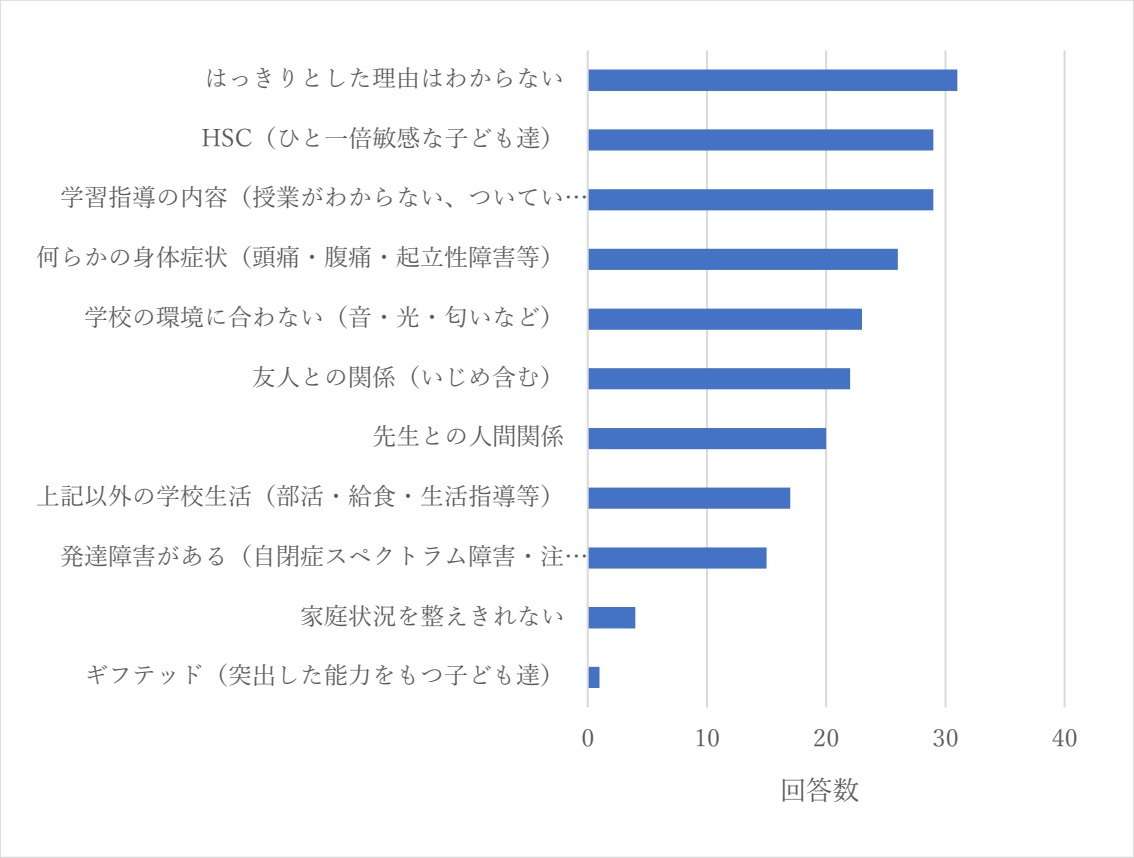


〇３年未満までの数が多く、合計すると 78%である。

〇本調査は、「不登校だった」と「今も不登校」を区別していない。

質問６　不登校の理由と思われるものすべてにチェックをお願いします。

集計結果（多い順）



（理由の詳細）　学習指導の内容（授業がわからない、ついていけない・つまらない、簡単すぎる）

発達障害がある（自閉症スペクトラム障害・注意欠如多動性障害（ADHD）・学習障害）

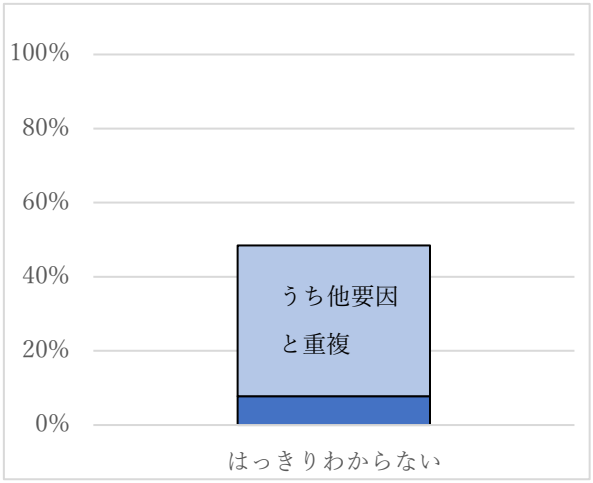
回答者によって追加された選択肢

本人なりの違和感	1
みんなで一緒に”というのがマイペースな本人にはボディブローのようにきいていた	1
ハードスケジュールすぎる、学校生活に緊張をもつ。自主性、考えを持てるような授業、発表など怖いなど、教室にはいれない。休める安らぐ場所がない。集団にはいづらい。子供を責め立て教育しようとする先生の雰囲気。	1
ADHD の傾向がある。好きなことを突き詰めて出来ない環境が苦痛	1
母が子供を信頼してなかった	1
学校だと自由がない、怒られないように大人しくしている、やりたいことができない	1

以下、理由を内容によって分けて検討する

(1) 全般的要因

はっきりとした理由はわからない

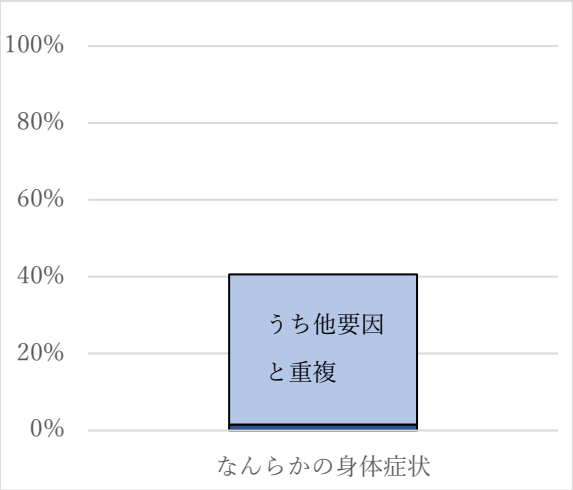


〇不登校の理由は、「はっきりとした理由はわからない」が最大で 48%を占める。しかし、子どもがなにかしらは訴えているため、そのうちの 81%は他の要因と重複している。

〇約１０００例を集めた他の不登校アンケート調査でも、本人にも学校に行けない理由がわからない例が 37%ある。
（「未来地図」https://miraitizu.com/wp-content/uploads/survey_2021_att.pdf）

〇不登校の理由が、本人にとっても保護者にとってもはっきりわからないことは、普通にみられる現象である。理由がわからない場合であっても、本人が追い詰められていることは現実である。

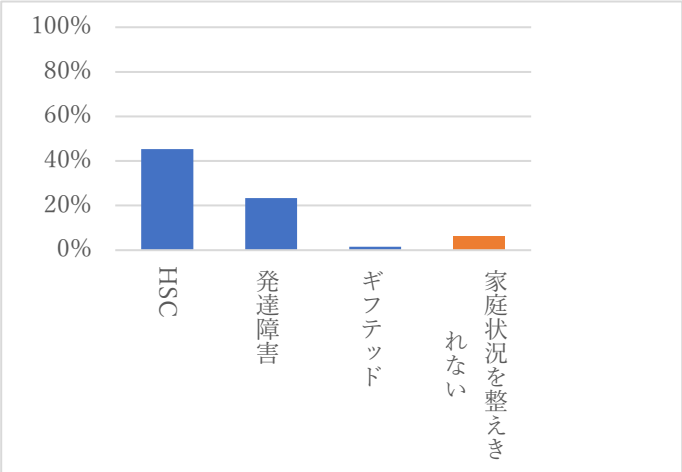
何らかの身体症状（頭痛、腹痛、起立性障害等）



○「何らかの身体症状（頭痛、腹痛、起立性障害等)」が第 3 位で、41％である。そのうちの 96％が他の要因と重複している。何らかの身体症状は不登校の子どもたちに頻繁に見られ、他の要因といっしょに現れることが多い。

○不登校の身体症状は、しばらく学校を休むと消えることが多いので軽く見られることが多いが、なおざりにできない不登校特有のサインである。

⑵本人要因、家庭要因



HSC　ひと一倍敏感で傷つきやすい子どもたち

発達障害　自閉症スペクトラム、注意欠如多動性障害（ADHD)、学習障害

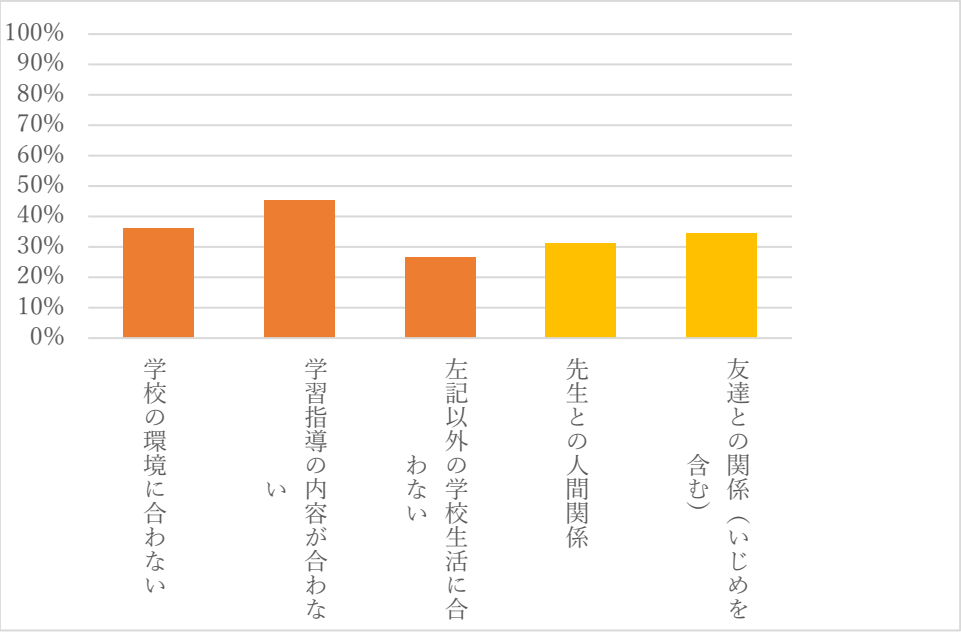
ギフテッド　突出した才能を持つ子ども

○ HSC(ひと一倍敏感で傷つきやすい子ども)が多かった。全要因中で第 2 位である。発達障害も多い（23%)。

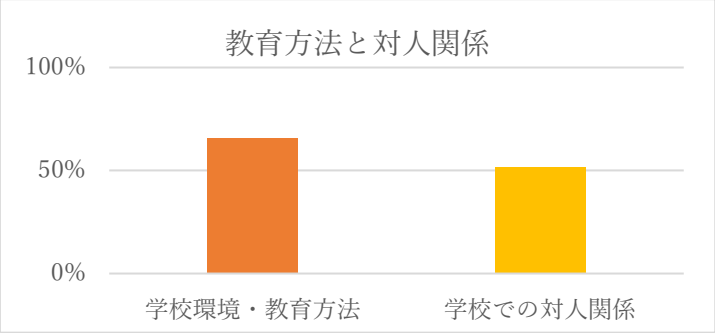
○　不登校になる子は、特性があったり、繊細な子どもたちが中心になっている。

○　家庭要因は「家庭状況を整えきれない」のみに質問をまとめてある。

(3)学校要因



○上のグラフで茶色の学校環境・教育方法とオレンジ色の対人関係を、それぞれの重複を除いてまとめると、次のグラフになる。



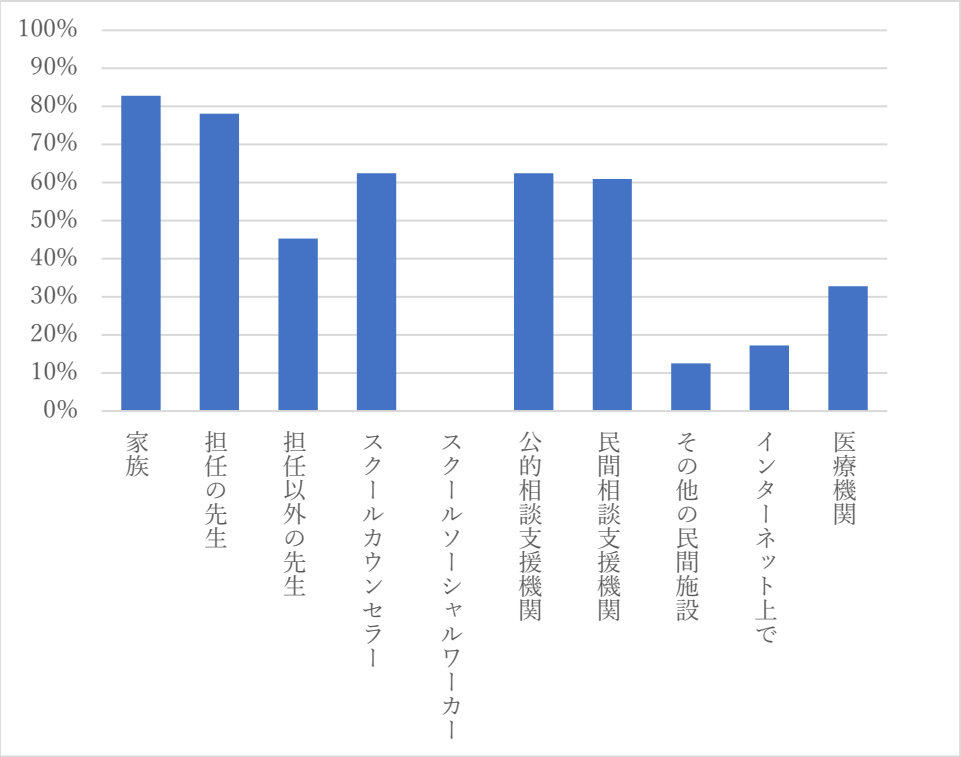
○学校環境・教育方法を不登校の要因としてあげるケースは、全回答者の 66%にのぼる。学校での対人関係の 52%を上回る。

○学校での授業、学校での生活を、我慢しているだけの「隠れ不登校」が中学生で約 1 割存在することが調査されているが、不登校になった子どもたちと学校の教育方法との関連は調査されていない。本調査では、学校環境・教育方法を不登校要因の回答項目に加えている。

「不登校傾向にある子供の実態調査」日本財団
https://www.nippon-foundation.or.jp/app/uploads/2019/01/new_inf_201811212_01.pdf

〇回答者によって追加された選択肢も、６例中５例が、学校の教育方法に子どもが合わないことを挙げている。

質問７　どこに相談しましたか？していますか？

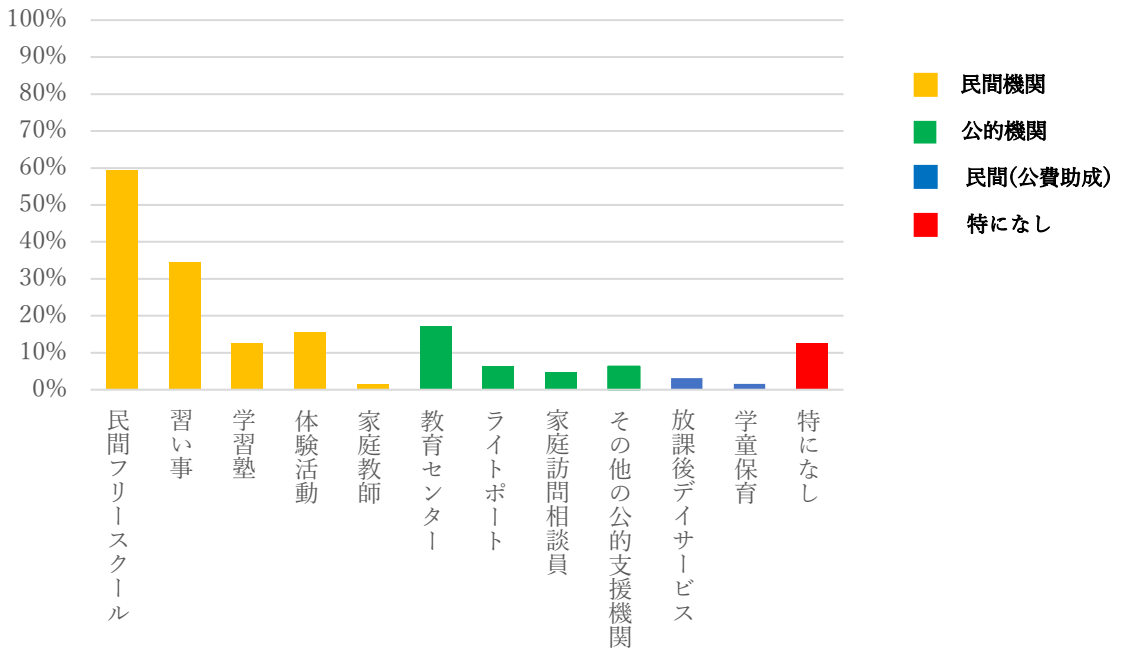


〇家族と相談すること、担任と相談することは当然のことと思われ、実際に第一位、第二位を占めるが、数としてはそれぞれ８割程度にとどまっている。保護者ごとの事情があることが推測されるので、学校外の相談機関の存在は重要である。

〇公的相談機関と民間相談機関は、どちらも６割程度の人が利用している。

〇スクールソーシャルワーカーを挙げる回答がなかったが、スクールソーシャルワーカーは、もっと活用可能である。

質問８　どういったところを利用していますか。



(注)　教育センター、ライトポート、家庭訪問相談員はいずれも千葉市の公的機関

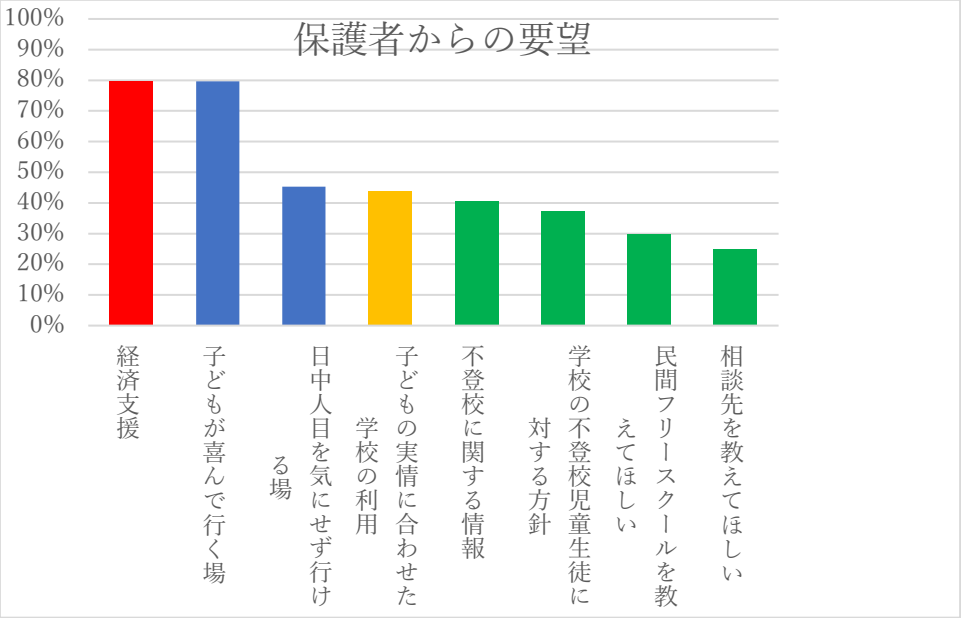
○「特になし」は約１割である。９割の人たちは、何らかの学校外機関を利用していた。

○民間フリースクールを利用する人が ６ 割にのぼるが、これは、このアンケートがフリースクールを中心として拡散されたためである。

○習い事が、学習塾を上回る。習い事のほうが、子どもにとって行きやすい。

質問９　どのような要望がありますか。

⑴アンケート項目より

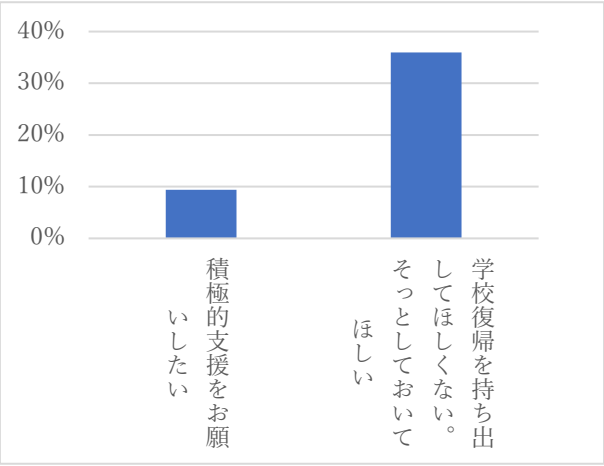


〇経済支援を望む声と、子どもが喜んで行く場を望む声が、圧倒的に多い。どちらも回答者の８割を占める。

〇子どもの実情に合わせた学校の利用を望む声が約 40%ある。

〇緑で示したグラフは、いずれも情報を求める声である。

⑵学校に対する基本要望



〇学校に対して、積極支援を望むのか、学校復帰を持ち出してほしくないのかの項目を設けた。上記の結果となった。

(3) 追加された選択肢

要望項目を追加できるようにしたところ、実質的には要望の自由記述となった。

ホームスクールの認知、その選択肢を尊重して欲しい。また不登校ではない兄弟に、過度な登校刺激やズル休みという言葉を使わないよう配慮して欲しい。	1
クラス替えで仲の良い子と一緒にするとか、相性の良い担任もしくは不登校に理解ある担任にするとか、子どもが学校に行きたいと思ったときに行きやすい環境をお願いしたい。	1
先生方へ、不登校の子どもたちの居場所の視察	1
同じような仲間と繋がれる場所がほしいと強く思っていました。	1
一番は経済的支援。家庭に直接ではなくても、フリースクールに。そして、月謝を下げてほしい	1
「学校は（当たり前に）行くところ」という学校側の前提条件（価値観）を根本的に捉え直して欲しい	1
横の連携が欲しい（フリースクール・学校・発達障害の相談等）	1
不登校後の情報・相談先がほしい（進学・就職）	1
オンラインで授業を受けられるようにしてほしいです。教室は苦手ですが、勉強はできるので。	1
学校に登校することがゴールではなく、その子に合った教育機会について考えて学校にも一緒に考えて欲しかった	1
同じような悩みを分かち合える仲間と出会える場所がほしかったです	1
スクールカウンセラーが常駐してくれればとおもう。担任の先生は忙しすぎるため、助けをもとめられない	1
同調圧力の小学校の教育には変化がもとめられていて、空気を読み子供たちは怖さ疲れを感じる。教育改革が必要だと思う	1
子どもはもちろん、親の気持ちにも寄り添って考えてくれる場を、早い段階で知りたい	1
学習についていけない子供がおいてけぼりになるのですが、学校でそういう子の面倒も見てもらえる環境になって欲しい	1
給食費などを返して欲しい	1

質問 10　ご意見・ご感想があれば自由に記入してください。

36 件の回答をテーマ別に分類した。複数テーマの場合分割したため 43 件を掲載している。

テーマ別分類

経済問題　不登校の現状に理解を　教育に選択肢を　学校改革
学校・行政の対応　フリースクールの意味　見通し

{経済問題}

〇学校以外で本人が行ける場がやっと見つかったが、月謝は高く正直家計が苦しいです。

〇最近では不登校に関して認知されてきて考え方も変わってきているようですが、まだまだ不登校児を抱える家庭では大変なことがいろいろあります。フリースクール等を認知して頂き、定期券の使用許可や経済支援が出来るようにして頂けると助かります。

〇全くの不登校児や、学ぶ場所を自ら決めている子ども（通常登校する日とフリースクールなどに行く日を自分で決めている）など、多様な学び方をする子どもたちと活動したり、ワークショップ的なものに参加したりしています。個人的にそのような居場所に行くことは、通常の登校をする子よりもずっと、想定外の費用がかかります。いわゆる学校に行かなくてもそこで学んでいます。このような活動に対しても実質的な経済的支援をして頂きたいです。

〇徒歩で通える範囲で不登校児の居場所があればなぁと思います。 選択肢と、それに対する経済的支援があれ子供も親も精神的に追い詰められずに済みます。

〇フリースクールを利用させて頂いてますが、金銭的な補助があるとありがたいです。

〇低学年の子供が活動できる場所がほぼ無い。フリースクールは料金が高くて利用できない。

〇民間フリースクールもイエナプランのように、子ども達が主体的に学ぶ機会を増やそうと色々手間暇をかけてくださってますが、現状、経済的理由等から限界もあります。また、通わせる側としては、月謝は、かなりの負担となっており、給食費などは止めていただきましたが、家賃並みの月謝は負担大です。そのため、仕事を増やさざるを得ず、家庭環境を子ども中心に整えるどころではありません。また基礎学習も追加したいですが、経済的には無

理なため、家庭で少しずつ取り組んではいますが、難しい面も多々あります。 さらには、中学、その先の進学情報など、たとえば地域みらい留学制度、神奈川の不登校高校生向けのセンターなどの情報がもっと身近に得られる環境整備も期待します。

〇フリースクールは、子供を全体的に見てもらえ親の相談にものってもらえるのが助かります。でも、お金はかかりますので経済的に厳しく通わせられない方もいると思います。我が家は理解のある職場でリモート勤務に切り替えられましたが、業種や職場によっては親が仕事を辞めざるを得ない方もいるのでは？と思います。

{不登校の現状に理解を}

〇不登校はその子一人の問題ではありません。家族全体の問題です。家にずっといられると親子ともどもしんどくなってくる。兄弟もつられて行きたくないと言う。フリースクールの送迎に付き合う兄弟たちの自由はどこへ？そしてフリースクールに行けたとしても、経済的負担がかなり大きいのでパートしなければならない、近くにフリースクールがないので送迎もしなければならない。本人ももちろんきついですが、お金も手間もすべて引き受ける親もしんどいです。

〇4 月に中学卒業した子も 引きこもってます。2 人ともマスクが 長時間できず（健康上の理由）2020 年から 1 年、行っていた施設に入れなくなり 先生やスタッフへの不信感で 今年度ノーマスク OK もらいましたが 中 2 の子は 行けません。

〇新しい生活様式で 不登校になったお子さんも 増えてるとの事 重症化も死亡も出てない 子ども達のに日常生活を戻してあげたいです。 金銭的にフリースクールは 無理なので気軽に行ける 居場所があるとありがたいです。

〇子どもが、誰か人と関われる居場所を作ってあげたいのですが、本人出かけたくないようなので、何もできません。

〇うちの場合は HSC なので、HSC に関して学校や幼稚園の先生方に知識を持って頂けると嬉しいです。担任の先生には HSC に関する本のコピーを渡したりしていますが、関心が薄い印象です。

〇学校でも、学校に行けない、行かない児童がいる事、それが特別な事では無いことを通学している児童にも伝え続けて欲しい。 そうすれば、あの子だけずるいといったような偏見

が無くなるのでは。

〇学校に行かない・行けないことを否定的に考えるのではなく、全ての子どもたちが肯定される社会にしたいです。

〇共同購入なので。と、小学校から使わないドリルやテストがたくさん届きます。その分フリースクールの会費や交通費に回したいです。 また、小学校の授業のひとつとしてプレーパークへ行くなど、ダメと言われずに夢中で遊べる時間を作ってもらえたら嬉しいです。

〇登校はしていますがやる事がなく苦痛とのこと。職員室や保健室では先生の手が足りず本人のマインドが下がるだけ。居場所が学区内に確保できる事が理想。こどもがやりたいことをそのままやらせられる場所があればそこから友達や仲間を作っていけるかもしれない。今の所登校しているが心は引きこもり状態で心配です。

〇発達障がいについての経済的支援や理解が薄すぎる世の中だとひしひしと感じます。 もっと生きやすい地域にしてほしいです。 これは命にかかわることです。

{教育に選択肢を}

〇学校に行かないから不登校ではなく、学校は１つの手段であって 学校に行く、行かない、行けないではなく 子どもが健やかに過ごせる場所として学童期をどう過ごすのか？ 大人も子ども一緒に考えていけるといいなと思います。

〇知名度も含め学校以外の活動場所に国がもう少し目を向けてくれたら、行かせやすい親御さんは沢山いらっしゃると思います。 幼稚園から、公立の学校以外の居場所を案内して色々選択できるんだ！という流れがあれば良いのに、と思ってます。

〇不登校であることで負い目を感じない社会になってほしい。学校に通学する以外の選択肢がもっとあって良いのではないでしょうか？義務教育期間は特に、すべての子供が教育を受けられるように多くの選択肢があると良いと思います。

〇息子は学ぶことが嫌いではない。大人が決めたカリキュラムを一斉にやらされることが嫌だと言う。好きな教科は簡単過ぎてつまらないし、不得意な教科はただつまらない。子どもが興味をもつ順番はそれぞれ。今までの一斉教育で合う子はいいが、違うやり方で学ぶ学校が公教育でも必要な時期にきているのではないでしょうか。

〇学校のように、当たり前に行ける居場所(費用が学校と同じ負担で済む)が沢山あれば良いと思う。フリースクールや学習塾などあるのは知っているが、経済面で躊躇してしまう。兄弟も居るし、もし全員がフリースクールなどに行く事になれば経済的負担が大きい。フリースクールを考えても、兄弟のお迎えの関係で時間が厳しかったり、兄弟が多ければ親 1 人の負担が大きいと感じる。 不登校はその子 1 人の問題では無く、家族皆の問題です。その子 1 人のことだけに集中も出来ないので苦しくなることがあります。

〇「不」登校、という表現が個人的には好きではないです。息子が不登校になってみて感じたのは、「行かない」という " 選択 " をしただけのことであって、「不」というネガティブな選択ではなく、むしろ人として自分が何処で誰と何をして過ごすのか、ということを自分自身で選び取ったポジティブな生き方をしていると思います。息子が学校に行かなくなり始めた頃、学校の子ども達に会う度に「なんで来ないの？」と聞かれましたが「行きたくないからだよ。じゃあ君はなんで学校来てるの？」と聞くと、みんな絶句してました。行くも行かぬも、自分自身の意思で納得できるような関わりこそ、大人が見せるべき教育であり最も必要な対話なのではないかな、と思います。

〇日中に体調の良いときに単発で頼める家庭教師の情報があると助かる

{学校改革}

〇とにかくオンライン授業を選択できるようにしてほしいです

〇週 5 で毎日 6 時間は疲れ過ぎます。 英語やプログラミングや道徳、増えたら増えっぱなしなのは問題じゃないでしょうか。 高校のように一部を選択制するとか、減らす努力は出来ないでしょうか。

〇社交不安症です。初めての場所や集団に馴染めず、フリースクールもなかなか合いません。家でのオンライン授業なら受けると言ってるので、学校の授業をいつでもオンラインで配信してほしい。

{学校・行政の対応}

〇親のサポートが希薄だと感じる

〇むらはあるものの、1 年間に数回（一回につき 1 週間以上）の登校渋りが毎年あります。小学校入学当初、子どもが生きにくいと感じているのでは？と思い、まず担任→（担任判断で）学年→スクールカウンセラー→養護教育センターと相談しましたが、あまりにも時間がかかり、その間のモヤモヤが半端なく苦しかった記憶があります。 賛否はあるかもしれませんが、入学前後に子どもの凸凹の特性をはかるようなものが実施されると、子どもも親も早く特性に気付き、関係各所にお伝え出来るので助かると思います。

〇児童相談所の一時保護でも学びの時間をたくさん作って欲しかった。 一時保護されている間は学校はも行けず、世話もしてもらえず、家畜のようだったと娘に言われたことがあります。 家庭でうまくいかない子供を預かってくださってるのですが、ここにきて良かったと子供が思える環境を整えていただけたらと思います。

〇不登校にはまったく行かない子、少なからず行ける子、がまんして登校してる子など、さまざまだと思う。数の把握は難しいと思う。子供たちだれもが心を穏やかに過ごせる、多様性のある学校教育に変わってほしいと思います。 我が子は、先生の言葉かけでどんどんひどくなり、不安障害となってしまいました。朝は学校に行くだけでも大変だから、あさから、娘のできないところを指摘し怒らないでくださいと何度もお願いしましたが、かなわず、学校に行きたい娘の心はズタズタにされました。今でも憤りを感じます。朝からつきっきりで同行していても、先生の理解がないと、親の努力も子供の気持ちも水の泡となります。先生の気分で１日の雰囲気が変わるようなことがないよう、また、子供の気持ちに添えるような研鑽をつんでもらたいとおもいます。

〇学校関係者には、学校を休むことは悪ではないし必要なこともある、ということを真に理解して欲しい。学校を休みたい子どもを理解したい親を追い詰めないで欲しい。虐待やネグレクトの可能性もあり、親との面会等は必要だと思います。

〇学校を休みはじめた当初は、先生だけでなく、学校や友だちも恐くなってしまい、日常生活を送るのにも恐怖が強く、勉強どころじゃない状態でした。先生が家に持ってきてくれた課題はむしろ迷惑でした。 その後、急速に回復したときに、学校側からの働きかけ、子どもが学校の生活に興味を持つように働きかけてくれたのは、すごく助かりました。 今は中学生になりましたが、文句は言いながらですが、楽しく学校に通ってます。

〇行政系は、何についても学校を通す必要がある、予約までに時間がかかる、平日しかない、新学期になればイチからやり直し、等、「相談」には乗るが子供を包括的にみているわけではないので、話が進まない割に、手間ばかりかかり、親がどんどん疲弊する。そのため、途

中で行政関係に頼るのはあきらめました。

〇先生も人間だなぁと思う。 自分の都合のいいように言っている。

{フリースクールの意味}

〇学校で心も体も疲弊し自信をなくした子供達と親が罪悪感なく人の目やお金も気にしないでフリースクールに来て、疲れや思い込みから解放されて生きる希望を持てるようになりますように。心も体も元気になれば、また学校に行こうと思うかもしれないし、他の道を考えることが出来るかもしれません。その時は本当に辛くて苦しかったけど、それを乗り越えた今、子供も親も大きく成長しました。今苦しんでいる子供達と親の力になりたいと強くおもいます。

〇フリースクールに来る子は個性が強い。学校は社会性を学ぶ場でもあると思うが、個性的な子どもたちの中で関係性を築いていくことは学校でのそれと同じです。フリースクールでの学び方を学校関係者に理解して欲しいと思います。

〇まずは、民間フリースクールへの様々な支援や理解、現場の先生方の理解を深めてほしい。教育学部学生へのフリースクール教育実習実施。 学校へ行こうとしても起きられなかった子が、フリースクールへ通いだしてから毎朝、早起きし毎日楽しそうに通っている事実があります。２度と〇〇には会いたくない、と通いだしてから１週間後の子どもの本音に、無理に行かせなくて良かった、と心から思いました。きっと、行かせる方向性で学校側と話し合いを続けていたら、我が家は殺伐とした家庭環境だったでしょう。子どもも、まともには成長出来なかっただろうと思います。学校に戻す方向性だけでなく、個々に応じた多角的支援の必要性。

{見通し}

〇うちの子は子供ならではのガヤガヤしたうるささ、ルールを守らない子が嫌な様子。来年から中学生だがどこへ進学すべきなのかが分からない。私立の方が向いてる様だが、本人に学校に行きたい気持ちもなく困っている。

〇親がついていけば、１日学校ですごすこともできるようになった。三年生四月から一緒に通いつづけた、四年目になります。行きたいけど行けない、その子供の言葉が今の学校教育

の歪みで産み出された実情だと思う。今、我が子は心がつらくなり、学校をとりあえず一週間ほど休む予定でいます。小学校はいくら休んでもかまわないけど、中学校高校と欠席数は、進路に関わっていき、とても将来に希望がもてません。中学校高校と必ず進めるような相談機関があり、できるだけ登校する今の生活を続けていけるよう、また、社会との関わりをもてる環境の確保をしてほしい。

〇昔に比べて、学校の先生方の不登校への理解もあり、居場所に関しても色々な特徴のフリースクールなど増えてきていて、不登校に対する未来は明るいと思っております。不登校でも、かなりダメージを受けた子どもと、元気な子ども、色々といますので、色々なバージョンの子どもへの対応など、行政や学校関係者のご理解が更に増えていく事を願っております。

〇二人の娘が不登校経験 二人とも既に高校卒業年齢 同じ家庭にいても本人の自分の認め方等異なりまだ現在も自由に社会に出ていけるわけではないですが、不登校当初から見れば自分で他者と関わりながら必要なことはやっている(美容院や病院など)

（以上）